



## ■ ～薬草って身近にある！？～

薬草と聞くと、皆さんはどんなイメージが浮かびますか？

中には、ロールプレイングゲームに出てくる体力回復アイテムを思い出す方も多いのではないのでしょうか？ かくいう私もそうですが・・・



実は薬草には、普段使っている『医薬品』の原料になっているものがたくさんあります。

例えば、頭痛止めや解熱剤として使われている『アスピリン』の原料となるサリチル酸は、「セイヨウシロヤナギ」の樹皮の抽出物から発見されました。しかし、その効用は古くから知られており、古代ギリシャ時代からヤナギの樹皮は痛み止めとして使われていたようです。そして、19世紀末にアスピリンがサリチル酸から化学合成されるようになり、今では誕生から110年以上経つ歴史ある医薬品となりました。

また、みなさんご存知のインフルエンザの治療に使用される『タミフル』も「トウシキミ」の果実の成分のひとつであるシキミ酸を合成原料として使用されています。この果実のうち未熟なものを乾燥させたのが「八角」で、中国料理に欠くことのできない重要な香辛料のひとつとなっています。「八角」になる果実が『タミフル』と関係しているとは皆さん思いもよらないと思います。薬草ひとつとっても様々な使い方があるようです。

この夏の時期にみられる薬草にはエビスグサがあります。これは、ヒップホップグループの名前の由来となっているケツメイシ(決明子)を種に持つ薬草です。ケツメイシには便通を整えるなど整腸、緩下作用や利尿作用があるとされています。便通をよくする民間薬としてハブソウの種子を用いた「ハブ茶」が服用されてきましたが、現在では、すべてエビスグサの種子であるケツメイシが用いられています。



他にも様々な薬草がこの時期に様々なところで見受けられます。これら薬草・薬用植物を収集、栽培している薬用植物園が日本各地にあり、漢方薬原料植物をはじめ、有毒植物など珍しい薬草が四季を通して観察することができます。薬草や植物に興味のある方はお出かけになられてはどうでしょうか？

担当: 薬剤部 小林 丈人